

教科目標

視能訓練士科

1. 養成目的

「患者様に安全で質の高い医療サービスを提供する」ことを目標とし、同時に患者様が抱える様々な課題を理解し、視能訓練士として最善を尽くす医療人を目指す。そのために、視能訓練士として主体的に学び続ける高い意欲を持った人材を養成する。

2. 教育目標

正確な知識・技術のみならず、挨拶・言葉遣いなど対人援助職としての「相手を思いやる気持ち」を身につけることで、患者様へ安心、且つ安全な場所を提供する。「協働の学び」を通して多職種連携の意義を学ぶ。学内および臨地実習では、「患者様を観察する力」とともに検査の目的のみならず、正確に検査を行う技術と評価方法を学ぶ。知識の集大成として視能訓練士の国家資格取得を目指す。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	基礎分野	数学（統計含む）／物理学／医学英語／カウンセリング実技 コンピュータ演習／社会福祉学／倫理学／医療現場学ⅠⅡ	225 (15)
ミッション プログラム	専門基礎分野	発達心理学／生物学／人体の構造と機能ⅠⅡ 神経眼科学ⅠⅡ／内科学／病理学／臨床心理学／公衆衛生学 眼疾病学ⅠⅡ／視覚生理学ⅠⅡ／視覚生理学実習 視器の解剖生理学ⅠⅡ／視能検査機器学／ロービジョン医学 視覚障害者リハビリテーション／関係法規／医療安全ⅠⅡ	615 (39)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	視能矯正学ⅠⅡ／生理光学ⅠⅡ／眼科薬理学ⅠⅡ 視能検査学ⅠⅡⅢ／生理光学実習ⅠⅡⅢ／眼科学ⅠⅡ 視能学特論／視能訓練学／視能矯正学実習ⅠⅡⅢ 実習前教育ⅠⅡ／実習後教育／臨地実習	1555 (62)
	総合講座	視能訓練士総合講座ⅠⅡ／プロ養成講座ⅠⅡ	150 (10)
合計			2545 (126)

4. 学年（学期）目標

学年	到達目標
1年 (前期)	対人援助職を目指す者として、心理的・生物学的側面を通して人間を科学的に学ぶ。 視器の解剖から生理機序までを学ぶことで、正常な視機能を理解する。
1年 (後期)	視能訓練士としての学びの基礎となる知識を、専門基礎分野科目を通して理論的に学ぶ。 学内実習を通して、視能訓練士業務の基本となる屈折検査の手順を学ぶ。
2年 (前期)	眼科一般検査の対象・目的・手順・評価方法を理解し、知識と技術を繋げることで現場力を培う。 対人援助職として必要なカウンセリング能力を養う。
2年 (後期)	眼科一般検査の対象・目的・手順・評価方法を理解し、知識と技術を繋げることで現場力を培う。 対人援助職として必要なカウンセリング能力を養う。
3年 (前期)	学内実習・ロールプレイを通して患者様の主訴から検査カリキュラムの立案・評価・診断・治療までを考える力を養う。他と共同しながら問題解決を行う能力を、体験を通して学ぶ。
3年 (後期)	弱点対策授業において各自の弱点を強化する。相互支援的環境のもとで国家試験合格を目指す。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
視能訓練士	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験
コミュニケーションスキルアップ検定	必修	滋慶教育科学研究所	筆記試験
生理光学検定	必修	滋慶教育科学研究所	筆記試験
同行援護従業者	選択	東京都	研修

6. 就職分野

就職分野	職種	核能力
大学病院・総合病院等の眼科 眼科専門病院、眼科医院	視能訓練士	コミュニケーション能力 視機能検査学 視機能訓練学